

# 街を明るく 一日限定作品展

## 巨大リングや烏帽子、八幡馬など

### 八学大生、障害者施設と連携

来月10日、マチニワで

八戸

八戸学院大人間健康学科の大木えりか講師のゼミは、青森県南地方の障害者施設と連携し、中心街にオブジェを展示するプロジェクトを進めている。障害に対する理解促進と、にぎわいづくりへの貢献が目的で、展示は12月10日に同市三日町のマチニワで予定。各施設では、衰退が危惧される街なかで開かれる一日限定の作品展に向け、熱のこもった作業が続いている。

（小嶋嘉文）

プロジェクトは同ゼミ所属の学生が発案。市の助成金を受け、7月ごろから

設と連携した作品作りが始まった。同市の障害者サポートセ



作業の進捗状況を確認する学生（左）

ンターくるみの里は、高さ1・5ほどの巨大なリングやえんぶりの烏帽子、小型の八幡馬の制作を担当する。

学生らは1日、施設を訪れて進捗状況を確認。施設利用者は烏帽子をかたどった木製の型に、下地となる新聞紙を貼り付けるなど、丁寧に作業を進めた。

三日町の特定非営利活動法人「ごんべりの家」では、絵本「いびきのねこ」を題材とした貼り絵を制作。同市の生活介護事業所「サクラ」では、くるみの里が作った八幡馬に色を塗る。

プロジェクトを発案した佐々木綾奈さん（20）は「中心街は友人らとよく訪れており、作品の展示を通して街がより明るくなつてほしい」と願う。くるみの里の泉山彰理事長は「力作を多くの人に見てもらいたい」と話した。

今回は一日限定だが、今後とも場所を変えながら展示を継続する意向。